**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　党県議団の値打ち・大軍拡ノー**

　　　　　　二〇二三年三月四日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、水道料金、電気料金など公共料金がどんどん引き上げられ、価格の優等生といわれた卵まで２倍近くの値上げとなっています。「このままではもう暮らしていけない」と、あらゆる世代から悲鳴の声が寄せられています。こんなにも生活が苦しいときに、それぞれの政党・議員がこれまで何をしてきたのか、そして、今後何をするのか。４月の統一地方選挙では、このことが鋭く問われています。

みなさん、４月９日に改選される埼玉県議会では、共産党県議団が自民党・公明党の妨害をはねのけ、県民の切実な願いを一歩一歩実現してきました。例えば、廃止された住宅太陽光発電への補助の復活です。自民党県議団は、２０１６年の県５か年計画から太陽光発電事業を削除し、翌年には、県民の願いに逆らう「原発再稼働を求める意見書」を採択しました。それに対し、共産党県議団は一般質問で太陽光発電への支援とゼロカーボンシティー宣言を県に繰り返し迫ってきました。その結果、２０２３年度予算では、住宅への太陽光発電事業が復活し、知事もゼロカーボンシティ宣言を行うことを表明しました。

他にも、教室不足が大問題となっている特別支援学校について、計画的な学校建設を求める請願署名に県議会で唯一賛成してきたのが共産党です。学校関係者の運動を力に、議会でも具体的な提案と一体に学校建設を繰り返し求めてきました。その結果、２０２１年から今年までに、９９２人分にあたる特別支援学校の開校・増築が実現しました。さらに、子ども医療費無料化では、１９７０年代から女性団体とともに０歳児の医療費無料を求める運動を開始し、各市町村で対象年齢の拡大を実現してきましたが、党県議団の繰り返しの質問で、昨年１０月からは他市町村の医療機関での窓口払いも不要になりました。

みなさん、今後の県政では、日本共産党は全国６位の財政力を活かし、市町村と力をあわせて「子育て３つのゼロ」《①小中学校給食費ゼロ、②１８歳までの子ども医療費ゼロ、③子どもの国民健康保険税（均等割）ゼロ》を実現します。さらに、命を守る県保健所の新増設、全国最下位の医師数を増やすために医学生奨学金のさらなる拡大、高額な補聴器購入への助成制度、県水道料金２０％引き上げ中止を提案していきます。みなさんの願いを県政に届け、道理ある提案で一歩ずつ前に進める抜群の実現力をもつ日本共産党を４月の県議選でさらに大きく伸ばしてください。ご支援をよろしくお願いします。

みなさん、県民の厳しい暮らしをさらに押しつぶす岸田自公政権の大軍拡に埼玉からノーの声をあげていきます。戦争の準備ではなく、平和の準備を。日本共産党は、ＡＳＥＡＮと協力し、東アジアを平和の地域にするために、憲法９条にもとづく外交努力で戦争の心配のないアジアをつくります。

　最後に、大軍拡の危険な動きをしっかり伝える「しんぶん赤旗」の購読をお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）